

## Y. Y. 英語英文学科・4年次

### I. 留学レポート

#### ① 協定留学を目指した理由

イギリス留学を意識し始めたのは、私が高校1年生の時です。高校1年生の時の英語の先生は、イギリスが大好きで毎回授業中に自身のイギリス体験を話して下さったり、時には珍しいイギリス土産を持ってきて見せて下さったりしました。その先生のおかげで、私はイギリス文化や歴史に興味を持つようになり、高校2年生の時に3週間のイギリス海外研修に行くことになりました。イギリスで過ごした3週間は私が思っていた以上にとても楽しくて、実際に行ってみて初めて分かることが沢山あり、私の留学に対する思いはさらに強まりました。

#### ② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

大学で出される課題を、日々真面目に取り組んでいました。それらの課題をこなすだけで、自然と英語力はぐんぐん伸びていきました。また、大学主催の TOEFL Camp や English Camp、国際交流イベントにも入学時から積極的に参加していました。IELTS 対策を始めたのは、IELTS を受ける数か月前からで、公式問題集と IELTS 完全攻略を使用しました。スピーキング対策としては、大学の English Speaking & Writing Support を利用することをおすすめします。

#### ③ 留学決定から出発までの準備期間

ビザ申請手続きが一番大変でした。業者には頼まず、自分の力で全て行ったため、申請結果が届くまでの3週間は、不安で押しつぶされそうになりました。無事ビザを取得できたときは、自力でできたことが自信につながりましたが、想像以上にストレスがかかったので、業者に頼むことをおすすめします。（苦笑）あと、私のときは、ビザ申請の際、残高証明書は必要ありませんでした。アルバイトや留学手続きに追われていたので、勉強に十分費やすことはできませんでしたが、リスニング力を落とさないためにも、海外ドラマは見続けていました。

#### ④ 現地到着後

羽田空港からヒースロー空港までの直行便を利用しました。現地に到着したのが夕方だったので、そのまま空港付近のホテルに一泊し、翌日飛行機でリーズへ向かいました。空港から寮までは、タクシーで£25 くらいでした。

#### ⑤ 語学研修期間

##### ◆ 語学研修先の施設・環境について

現地の学生と同じ環境で、勉強することができました。食堂や図書館も利用することができ、また現地の学生は休暇中でほとんどいなかったため、キャンパス内はとても静かで落

ち着いていました。Summer Term 前半は、中国人と日本人が半々でした。後半からは、イタリア人やポーランド人などが加わり、国際色豊かになりました。

#### ◆ 授業内容、課題、試験

扱うテーマは、Education、Global Brand、Megacities といったアカデミックなものが多かったです。エッセイの書き方など、9月からの正規授業で必要なスキルをじっくりと学ぶことができ、また毎日のディスカッションを通じて、自分の意見や考えを言うことにも抵抗がなくなっていました。さらに、語学研修中は、Union が主催する Field Trip や国際交流イベント（Global Café や International Student Club など）に積極的に参加していました。

#### ⑥ 正規科目履修期間

##### ◆ 大学の施設・環境について

とても生活しやすい環境でした。キャンパス内に食堂、Café、Bar があり、図書館もいくつかあったので、試験前の混み合う時期でも、席を見つけることができました。またキャンパス付近には、Subway や Home（中華料理店）、パン屋などもあるので、ランチにおすすめです。

##### ◆ 履修科目

現地で、履修科目変更可能期間中に 2 つほど変更し、結果、様々な分野の授業 4 つを取ることに決めました。

##### ・ Exploring the Performing Arts

1年生の授業で、ミュージカルやオペラ、映画について学びました。1コマ2時間だったので、最初は集中力が足りず、正直苦痛でしたが、回を追うごとに先生が話す英語にも耳が慣れてきて、また扱うテーマ（例えば時代によって変化していく演出方法など）がどれも興味を持てるものだったので、受けていて楽しかったです。抽象的なテーマが多いので、難しく感じる方もいるかもしれません。先生はとても面白く気さくな方で、課題に取り組むときも、親身になってアドバイスをして下さいました。受講生は少なく、15人以下でした。

##### ・ Social and Cultural Worlds of Childhood and Youth

絵本や子供向けのメディアを題材に、そうしたものが子供の成長、教育にどう影響をもたらすかについて学びました。これも1コマ2時間の授業でしたが、1時間は隣の席や周りの人たちとのディスカッションだったので、それほど長く感じませんでした。また、事前リーディングの記事や資料も興味深いものが多く、先生が話す英語もゆっくりで分かりやすかったです。

##### ・ Traditional Alcoholic Beverages

ビールやワインについて学びました。授業は、専門用語がかなり多く、理数系の知識も必

要だったので、授業についていくのは大変でした。ですが、自分たちの手で実際にビールを醸造してみたり、またこちらに来てからお酒に興味を抱くようになったので、後半からは受けていて楽しかったです。受講生は多く、教室も広がりました。

#### ・ **Beginners French**

大学1年生のときと、3年生のときにフランス語の授業を取っていたため、海外でもフランス語を学びたいと思い、受講しました。初級クラスですが、日本でフランス語を全く学んだことがない人は、ついていくのは大変だと思います。日本人の友達がまさにその通りだったのですが、英語で外国語を学ぶということにかなり苦戦していました。日本とは違い、歌やイラストなど聴覚や視覚を使った方法で学び、また2時間ほぼ発音や会話で喋りっぱなしということが度々ありました。10人程の少人数クラスで、ペアワークが多いので、友達を作りやすいです。

#### ◆ **授業、レポート、定期試験**

Exploring the Performing Arts は 3500-4000 語のエッセイとグループプレゼンテーションがあり、Social and Cultural Worlds of Childhood and Youth は 3000 語のエッセイが1つでした。Traditional Alcoholic Beverages はグループワークとしてのビール醸造と、期末に Multiple Choice Questions があり、Beginners French は Reading・Listening・Writing の記述試験と、Speaking の試験が別がありました。

#### ⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

Union 主催の Give it a Go (GIAG) で、あらゆる Society にお試し参加することができます。9月にその冊子も配られるので、日時を確認して興味のある Society にはどんどん行ってみることをお勧めします。(Facebook でも確認することができます。) 私は、約1か月にわたる GIAG の期間中に、Trampoline、Erasmus and International Exchange (ESN)、Henna Society、ボランティア団体の Green Action など、本当に多くの Society に参加してみました。最終的に、Irish Dance、Japanese Society、East Asian Research Society に入ることを決めました。Irish Dance は、私の想像とは違い、足の動きがすごく速く、度々足がもつれそうになりました。週1回の初級クラスに通っていましたが、レッスン時間は1時間程度なのに、レッスンが終わるころにはいつも汗だくで、毎週いい運動になりました。ステップの種類やステップの踏み方、リズムの取り方が独特で(タップダンスに似ています)なおかつ足の動きは尋常でないほど速いので、最初はついていくのに必死ですが、上級生が丁寧に教えてくれるので、徐々に様になっていきました。本場で Irish Dance を習うことができ、嬉しかったです! また Japanese Society と East Asian Research Society には日本やアジアに興味がある学生がたくさんいるので、お互いの言語を教え合ったり、文化を共有し合ったりすることができ、友達をつくりやすい場だと思います。

#### ⑧ **現地での住まい(語学研修期間、正規科目履修期間)について**

語学研修期間、正規科目履修期間とも大学寮の Central Village に住んでいました。キャンパスや図書館まで徒歩 5 分で、シティセンターまでも徒歩 15 分ほどでした。また、寮に TESCO（小さなスーパー）があったので、わざわざシティセンターに行かなくても野菜や卵、お菓子、飲み物などはそこで買うことができました。立地は最高です。トイレ、シャワーは各部屋についており、キッチンだけフラットメイトとシェアでした。新しい建物なので、部屋は広く綺麗でとても快適でした。

### ⑨ 長期休暇の過ごし方

語学研修期間中は、毎週末、国内旅行に出かけていました。港町の Whitby やブロンテ姉妹の故郷 Haworth、隣町の York、また Lake District や Cotswolds など、イギリスらしい風景を堪能することができました。正規授業が始まってからは、授業の課題や Society など日々の生活が忙しく、なかなか心に余裕もなかったので、後から振り返れば、研修中に多くの観光地に行けてすごく良かったなと思います。研修が終わって、正規授業が始まるまでの休暇ではデンマークとスウェーデンへ、クリスマス休暇はドイツ、チェコ、オーストリア、フランスへ行きました。どの国もクリスマスで賑わっていて、とても楽しかったです！

### ⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

何もしませんでした。

## II. 留学の感想

### ① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

フラットメイトたちとの日々の生活です。語学研修期間中は、私以外、フラットメイトが全員中国人でしたが、みんな優しく、フレンドリーでした。唯一の日本人の私が孤立するような空間もなく、いつも声をかけてきてくれて、中国料理もしょっちゅう食べさせてくれました。中でも、3 時間以上煮込まれたチキンスープが忘れられません。芯から温まり、心もぽかぽかになりました。正規授業が始まってからは、一気に国際色豊かになり、ドイツ人、スイス人、チリ人、ケニア人の女の子 4 人でした。アジア人同士の英語とは違い、西欧のフラットメイトたちの英語力の高さや勢いに圧倒され、最初はかなり内にこもりがちでした。ですが、フラットメイトたちの歩み寄り、私を孤立させないように温かく家族のように接してくれたり、私の拙いゆっくりな英語にも耳を傾けてくれたり、そうした態度にすごく心が救われました。毎週水曜日に行われる各国の食事会、リーズ大学のラグビー試合観戦、Day Trip、花火、4 時間にも及ぶ Monopoly、折り紙、Christmas Party & My Birthday Party、新年会、Flat Quiz、Farewell Party など、数えきれないほどの思い出があります。こんなに素敵なフラットメイトたちに出会えて、本当に本当に幸せでした♡♡♡♡  
帰国した今も Whatsapp を通じて、それぞれの近況を共有し合っています！

## ② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

9月からは正規授業が始まり、語学研修中と雰囲気もガラッと変わりました。アジア人が一気に少数派になり、周りがヨーロッパ出身の人たちで溢れ（フラットメイトたちも含め）、彼らの英語力の高さや勢いに圧倒されてしまい、まったく英語が話せなくなってしまったことがつらかったです。みんなの輪にいても、自分一人だけ英語をまったく話さず、ただ聞いているだけ。最初は話している内容も殆ど理解できず、話しかけてくれても会話が続き、盛り上がることもなく、その場に長時間いることが、すごく苦痛で、これからやっけていけるのかととても不安になりました。一度はそういった場を離れ、自分の部屋に閉じこもるという楽な道に逃げてしまいましたが、それでは何も解決にならないと自分に何度も言い聞かせ、また、何を話しているか分からない、苦痛で仕方がないけど、その場に一緒にいることに意味があると思ひ、外に出ることを心がけました。そしたら、あるとき、ドイツ人のフラットメイトに“You are so brave to come here.”と言われました。「日本という遠い国から来て、あなたはとても勇敢よ。とても勇気が必要だったでしょ？」と、ずっと気を張って必死になっていた私はその言葉にすごく救われました。英語が出来なくて馬鹿にされているのではないかという私の勝手な思い込みとは正反対に、そう思っている人もいるのだと知って、急に心が軽くなり、自分のペースでゆっくり上達していけばいいと思えるようになりました。それからは、私の話す英語が周りの人たちに比べて、どんなにゆっくりだとしても、会話に加わるように努力しました。そして自然とみんなが話す英語にも耳が慣れていき、帰国間際には、自分でも驚くほど、喋れるようになっていました。これが留学中最も苦勞したこと、同時に成し得たことです。

## ③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

金曜日の夜になると、みんな dress up をしてクラブへ行きます。クラブへ行く前に、夜の11時頃まで、各フラットで pre-drink といって、ワインやウイスキーをそれぞれ持ち寄り、飲みながらお喋りしたり、時には歌を歌ったり、ダンスを踊ったりと、パーティー前の飲み会みたいなものが行われました。私のフラットでは殆どなかったのですが、たまに他のフラットや外から騒いでいる声が聞こえてきたりしました。海外のこうした習慣は、耳にしたり、読んだりしていたので、よく知っているつもりでしたが、実際目の当たりにしてみると、す、すごいなと思いました。他には、スーパーやカフェ、お店が遅くても8時には閉まってしまうところ。日曜日だと、どのお店も夕方5時には閉まってしまうので、最初は戸惑いました。

## Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

### ① 留学先大学の良かった点、悪かった点

リーズ大学は、マンモス校で学生数だけではなく、留学生も非常に多かったです。なので、

留学生向けのサークルも多く、そのような集まりに顔を出すことで、様々な国の人たちと出会い、異文化交流をすることができます。また、Union 主催のイベントや Field Trip も充実していて、Society も語学、スポーツ、ボランティアなど幅広くあったので、自分の興味と直結する Society を必ず見つけることができます。悪かった点を強いて言えば、日本人留学生が多いところです。ただ、留学に来ている日本人学生は、みな個性があり、話していてとても面白く、学べることもたくさんあるので、そういった人たちと交流するのも楽しいと思います。

## ② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは絶対に必要です。その他は、お箸、菜箸、しゃもじなど。生活用品は全て現地で揃えることができます。(Wilko, Morrisons, Primark がおすすめです!) また、Chinese Super Market では日本米、醤油、味噌、ラーメンなど日本食を買うことができます。値段は少し高いですが、品揃えは結構いいです。

## ③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力とスピーキング力が大幅に UP しました！ヨーロッパ圏の子たちと同じテンポで話すことはまだ難しいですが、初対面、たとえば、ホステルで出会った子たちと楽しく会話することができるようになりました。また、このことが旅の楽しみの一つでもあります。

## ④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

たった 7 か月の留学で、ここでは書ききれないほどのものを手にすることができました。それは、英語力であったり、忍耐力であったり、人とのつながりであったり、本当にさまざまです。勇気を出して、ぜひ、留学に挑戦してみてください。

## IV. 将来の目標

### ① 今後の進路、将来の目標・夢

将来は、翻訳家になることです。今はまだ経験も少なく、言語能力も未熟なので難しいですが、必ず叶えたい夢です。

## V. 写真



University of Leeds V.S. Leeds Beckett University のラグビー試合観戦を、フラットメイトたちと一緒に。なかなかの接戦で、最後までどちらが勝つか、ハラハラしましたが、University of Leeds が見事勝利！とても嬉しかったです！



私の誕生日に、お菓子作りが大好きなドイツ人のフラットメイトが、日本のレシピを見て、イチゴのショートケーキを作ってくれました！みんなに Happy Birthday の曲を歌ってもらい、たくさんの人に “Happy Birthday!” と祝ってもらい、心に残る最高の 22 歳の誕生日になりました！